

Economic Monitor

所 長 三輪裕範 03-3497-3675 miwa-y@itochu.co.jp
主任研究員 丸山義正 03-3497-6284 maruyama-yo@itochu.co.jp

4月の輸出は期待外れ、中国向けが足を引っ張る

4月の輸出は前月比横ばいと期待外れ。円安による数量押し上げ効果の強まりにより、輸出の増勢は続く見込みだが、中国向けを中心に需要下振れには注意が必要。輸出が横ばいの一方、輸入は減少したため、貿易赤字は3月から縮小。貿易収支は夏場までは、一進一退の推移が続くと予想。

輸出は期待外れ

財務省が公表した2013年4月の貿易統計によると、輸出額（名目輸出）は前年比3.8%（2013年3月1.1%）と増加幅を拡大した。しかし、財務省試算の季節調整値では前月比横ばいにとどまり、増勢が止まっている。季節調整値ベースで増加を見込んでいた市場コンセンサス対比では弱めの内容と言える。円安に伴い輸出価格（輸出物価）の上昇が続いているため（4月前月比0.7%）数量（実質）ベースで見ると、4月の輸出は更に弱めである。当社が輸出物価（輸出価格）の変動を控除の上で試算している実質ベースの季節調整値は4月に前月比▲0.5%（3月2.5%）と小幅ながら減少に転じた。4月の水準は1～3月期を0.6%上回るが、1～3月期の前期比1.6%には届かない。

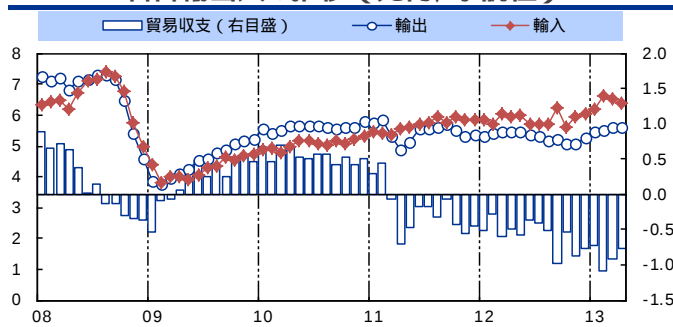
円安の影響は強まるが...

円安が輸出数量に及ぼす効果は徐々に強まりつつあり、それは後述する米国向けやEU向けなどの持ち直しからも確認できる。しかし、景気回復の遅れている中国向けなどが低調に推移し、足を引っ張っている。為替変動による押し上げに、需要動向の下振れが4月は勝ったと言える。今後は円安による押し上げが更に強まり、輸出は増勢を強めていくと考えられるが、需要動向次第では増加ペースが緩慢なものにとどまる可能性がある点には留意が必要である。

輸入は総じて低調

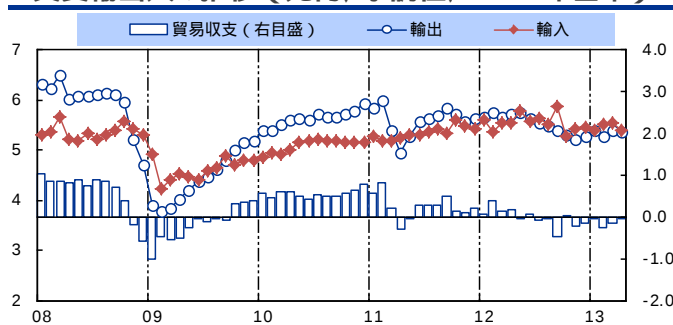
4月の輸入額は前年比9.4%（3月5.6%）に伸びを高めた。但し、季節調整値では前月比▲2.4%（3月▲1.3%）と2ヶ月連続で減少しており、輸出にもまして低調である。実質ベースに換算しても▲2.6%（3月0.7%）と減少は変わらない¹。品目別に見ると、ほとんどの分類で減少している。円安に伴う輸入価格の上昇が輸入数量を押し下げつつあると考えられるが、その度合いについてはもう少しデータの見極

名目輸出入の推移（兆円、季調値）



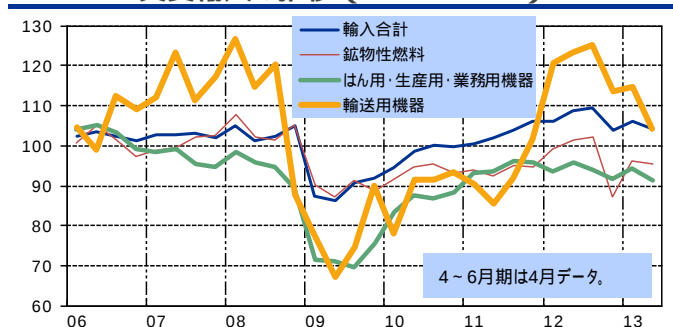
(出所) 財務省

実質輸出入の推移（兆円、季調値、2010年基準）



(出所) 財務省、日本銀行

実質輸入の推移（2005=100）



(出所) 財務省、日本銀行

¹ 4月の輸入物価は前月比1.3%と引き続き上昇。

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、伊藤忠経済研究所が信頼できると判断した情報に基づき作成しておりますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。記載内容は、伊藤忠商事ないしはその関連会社の投資方針と整合的であるとは限りません。

めが必要と考えられる。

輸入の落ち込みで貿易赤字は縮小

4 月は輸出の増勢が止まったものの、輸入が落ち込んだため、貿易収支（季節調整値）は、3 月▲9,198 億円から 4 月▲7,644 億円へ赤字幅が縮小した。均してみれば、昨年終盤以降は、赤字幅が一進一退の横ばい状況にある。当社では、夏場まで同様の一进一退の状態が続いた後、円安による輸出数量の増加（及び輸入数量の減少）を受けて、貿易赤字が緩やかな縮小へ向かうと予想している。但し、円安が更に進行した場合は、円安に伴う輸入価格押し上げにより、貿易赤字が縮小へ向かうタイミングが遅れる可能性もある。なお、実質貿易収支は 4 月に 1～3 月期対比で赤字幅が縮小しており、4～6 月期も外需が実質 GDP 成長率を押し上げる可能性が高いことを示唆している。

円安により米国や EU 向けが増加

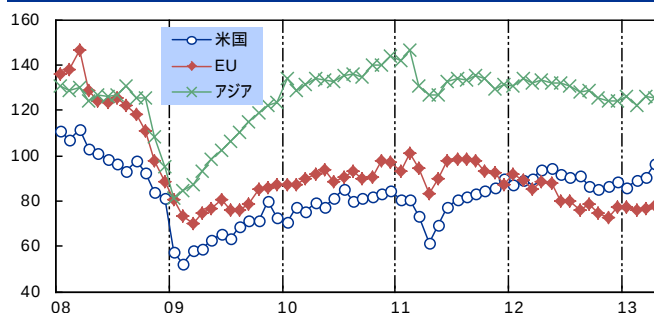
4 月の輸出を、当社試算の実質ベース・季節調整値に基づき仕向け地別に見ると、米国向けが前月比 6.1%（3 月 1.4%）と大幅に増加、欧州向けも 2.3%（3 月 0.5%）と 2 ヶ月連続で増加したものの、アジア向けが▲0.4%（3 月 3.1%）と伸び悩み、全体の足を引っ張った。またロシア向けなども振るわなかった。

米国向けでは、輸出の 4 割を占める自動車など輸送用機器が前月比 12.0%（3 月 0.9%）と大幅に増加し、全体をけん引した。また、価格競争力の改善が進んでいる化学製品も 15.9%（3 月▲5.1%）と増勢が目立つ。逆に、はん用・生産用・業務用機器（以下、一般機械、4 月▲5.0%）や電気機器（4 月▲0.3%）は振るわなかった。EU 向けでは輸送用機器や一般機械が好調だった。

アジア向けは、中国向けが下押し

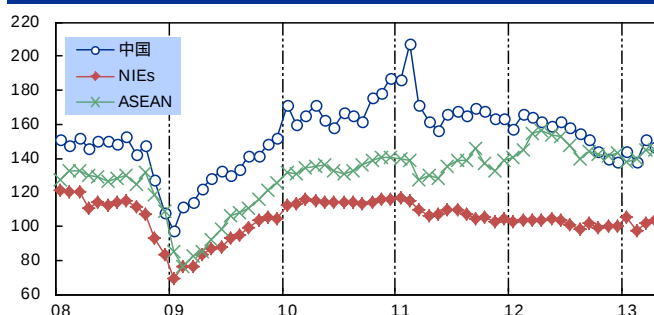
アジア向けでは、NIEs 向けが前月比 1.4%（3 月 4.5%）、ASEAN 向けも 0.2%（3 月 3.3%）と増勢を維持した一方で、中国向けが▲3.0%（3 月 9.5%）と減少し、全体を押し下げている。中国向けでは日中間のトラブルによる悪影響の緩和を映じて輸送用機器が 10.1%（3 月 21.8%）と 5 ヶ月連続で増加し、問題発生前の水準にあと一息のところまで回復したものの、一般機械（4 月▲12.1%）や電気機械（4 月▲4.7%）が大幅

地域別実質輸出の推移（2010年=100）



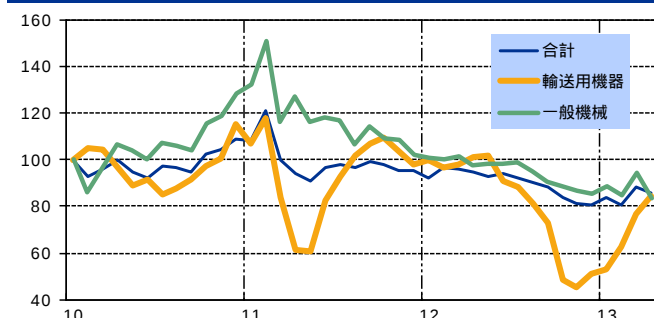
（出所）財務省、日本銀行

対アジア実質輸出の推移（2010年=100）



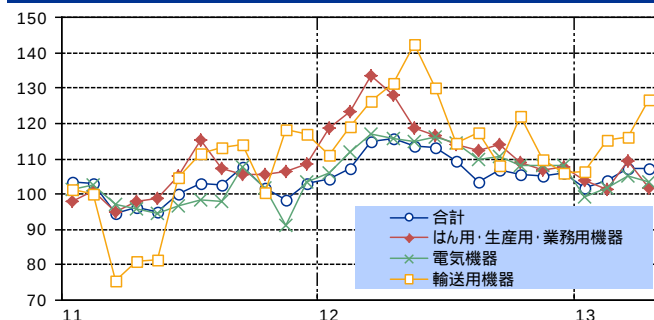
（出所）財務省、日本銀行

中国向け実質輸出（2010/1=100）



（出所）財務省、日本銀行

ASEAN向け実質輸出（2010=100）



（出所）財務省、日本銀行

に減少した。中国経済の回復の遅れや製造業における設備投資抑制の動きが影響していると考えられる。なお、4月の中国向け輸出は3月増加が寄与し1~3月期の水準を1.5%上回っているが、輸送用機器を除けば逆に1%超も下回り、回復が十分には進んでいない。

NIEs 向けは IT・デジタル関連の世界的な底入れを映じて、電気機器が3月前月比12.0%、4月4.5%と2ヶ月連続で増加し、全体を押し上げた。また4月には輸送用機器も好調だった。ASEAN 向けでは、一般機械（▲6.8%）の低調推移が続いているが、輸送用機器（9.2%）が大きく伸びている。

日本製半導体製造装置受注（季節調整値、年率、10億ドル、倍）

